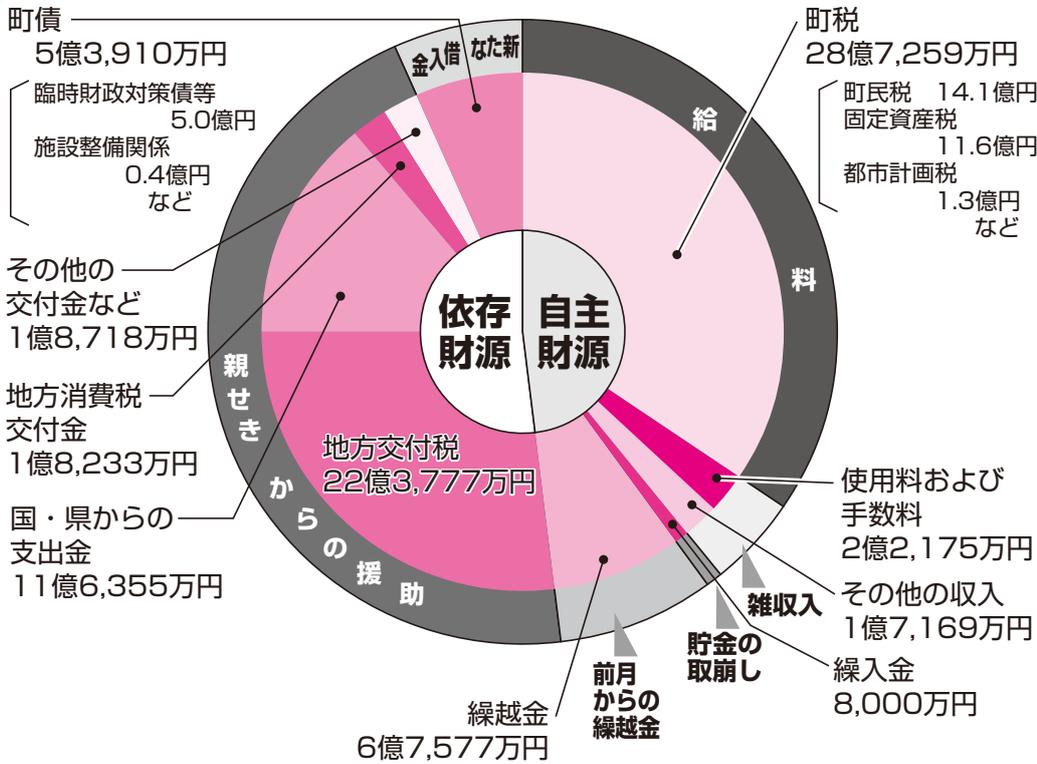


計 決 算

歳入 83億3,173万円



平成23年度財政状況

斑鳩町の家計簿

家計にたとえると

● 1か月の総収入 … 29万2千円

斑鳩家の収入	収入額 (円)	構成比 (%)	平成23年の歳入
給料	100,000	34.2	町税
雑収入 (内職・パート収入や不動産収入)	14,000	4.8	使用料および手数料 その他の収入 諸収入
貯金の取崩し	3,000	1.0	繰入金
前月からの繰越金	24,000	8.2	繰越金
親せきからの援助	132,000	45.2	地方交付税 国庫支出金 県支出金 地方消費税交付金等
新たな借入金	19,000	6.5	町債
合計	292,000		

平成23年度の決算がまとまり、9月の町議会定例会で認定されました。
みなさんに納めていただいた大切な税金がどのように使われたのか、一般会計を中心に概要をお知らせします。

斑鳩家の家計簿は、斑鳩町の決算額を人口28,561人(平成24年3月末現在)で割った数字を、1か月の家計にたとえています。



一般会

おもな用語チェック

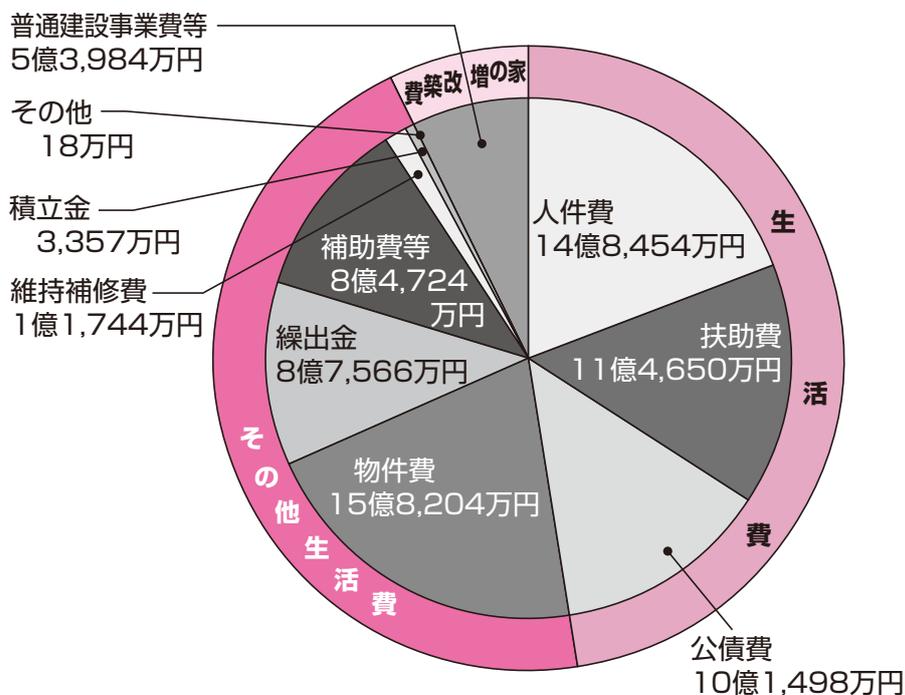
■歳入の主な用語録

町税 みなさんが納めた町民税、固定資産税等
地方交付税 所得税等、国が徴収した税金のなかから町の財政状況に応じて交付される交付金
町債 大きな事業をおこなうための国や金融機関からの借入金

■歳出の主な用語録

人件費 職員や特別職の給与、議員および各委員会の委員報酬
扶助費 子ども手当、子ども・老人・重度障害者の医療費助成金等
公債費 町債(借入金)の返済金
物件費 消耗品や交際費、業務委託料等
繰出金 国民健康保険等の特別会計へ繰り出して使ったお金
補助費等 各種事業や団体への補助金や負担金
維持補修費 公共施設の修繕料等
普通建設事業費 道路等の整備等に使ったお金

歳出 76億4,199万円



斑鳩町の財政を、

〈平成23年度会計別決算〉

会計名	歳入決算額	歳出決算額
一般会計	83億3,173万円	76億4,199万円
特別会計	62億5,118万円	66億9,419万円
国民健康保険事業	30億1,718万円	34億7,996万円
大字龍田財産区	349万円	32万円
公共下水道事業	12億1,427万円	12億1,427万円
介護保険事業	17億2,872万円	17億1,335万円
後期高齢者医療	2億8,752万円	2億8,629万円
総合計	145億8,291万円	143億3,618万円

● 1か月の総支出…26万8千円 (来月への繰越金2万4千円)

斑鳩家の支出		支出額(円)	構成比(%)	平成23年の歳出
生活費	食費	52,000	19.4	人件費
	医療費、教育費等	40,000	14.9	扶助費
	ローンの返済	36,000	13.4	公債費
その他生活費	光熱水費・消耗品等	55,000	20.5	物件費
	家の修繕費	4,000	1.5	維持補修費
	自治会費・スポーツクラブ会費等	30,000	11.2	補助費等
	貯金	1,000	0.4	積立金
	子どもへの仕送り	31,000	11.6	繰出金
家の増改築費	家の増改築費用	19,000	7.1	普通建設事業費等
合計		268,000		

こんな事業に お金を使いました

平成23年度に
おこなった
主な事業を
紹介します。



1 文化の香り高く 心豊かなまちづくり

● 法隆寺ゆかりの都市文化交流協定締結記念事業として、提携都市である神奈川県小田原市で、飛鳥時代の貴重な歴史資料等の展示会を開催しました。

● 史跡公園整備に伴う史跡中宮寺跡の発掘調査が完了したことから、中宮寺跡の周知と遺跡の重要性を認識する機会づくりとして、史跡中宮寺跡シンポジウムを開催しました。



▶ 斑鳩文化の継承や観光客誘致のため、斑鳩の里を発祥の地とする能楽「金剛流」の里帰り公演として、観月祭を開催しました。

3 潤いのある 魅力的なまちづくり

● 道路交通の安全性の確保や橋りょう長寿命化に係るコストの削減を図るため、橋りょう長寿命化修繕計画を策定しました。

● 計画的・効率的な都市基盤整備をすすめるため、主要幹線道路の交通量調査をおこないました。

● 住宅の耐震化の向上を図るため、申請に基づき、無料耐震診断や耐震改修工事にお



要する費用の一部補助をおこないました。

▲すべての人が安らぎを感じられる風景・景観づくりのため、法起寺・法輪寺周辺などの歴史的景観と田園風景が一体となった地域で、コスモス栽培の推進をおこないました。

2 すこやかに生き生き 暮らせるまちづくり

● 平成24年度から平成26年度までの障害福祉サービスや相談支援、地域生活支援事業に関する事項を示した第3次斑鳩町障害福祉計画を策定しました。

● 健康づくりを効果的に推進するため、保健センターを活動拠点として活動できる保健センターサポーターの養成をおこないました。

● 各幼稚園の保育室・遊戯室にエアコンを設置し、夏季の保育環境を改善しました。



▲心の健康づくりを推進するため、講演会を開催し、知識の普及啓発や情報提供をおこないました。

4 安全で快適なまちづくり

- 資源の浪費・無駄をなくし、脱焼却・脱埋立をめざす「ゼロ・ウェイスト」をすすめるため、広く周知することを目的として、ゼロ・ウェイストフェスティバルを開催しました。
- 老朽化がすすむ衛生処理場での焼却処理を平成24年3月31日で廃止し、可燃ごみ焼却を民間委託するため、仮設の積み替え施設の整備をおこないました。
- 東日本大震災の被災地の岩手県大槌町や、台風12号で被災した奈良県十津川村、野迫川村に対して職員派遣等の支援をおこないました。
- 局地的なゲリラ豪雨等に迅速に水防活動がおこなえるよう、雨量観測システムの導入をおこないました。
- 浸水対策として、雨水現況調査をもとに、既存水路の改修をおこないました。



▶ 大災害等に備え、既存の通信手段が途絶えた際に活用する衛星携帯電話と停電時の緊急用電源として発電機を設置しました。



▶ 消防団の消防力の充実を図るため、消防第3分団のポンプ車を更新しました。

6 とともに築く協働のまちづくり

- 納付方法の多様化による住民サービスの向上を図るため、コンビニ収納・ペイジー収納の運用開始に向けたシステム整備をおこないました。
- 住民と行政の協働のまちづくりを推進するため、自治会の枠を越えたさまざまな団体のコミュニティ活動の拠点として、広域的な自治会を対象とした（仮称）地域交流館の設計等をおこないました。



▲ 法隆寺の食封があったとされている縁から、新たに神奈川県小田原市と「法隆寺ゆかりの都市文化交流協定」を締結し、友好都市等交流を深めました。

地域交流館の設計等をおこないました。

5 活力とにぎわいのあるまちづくり

- 観光客に「まちあるき」を楽しんでもらえるよう地域のあらゆる魅力ある資源を生かし、誰もが訪れたいくなる場所を提供するため、まちあるき観光拠点づくり事業計画を策定しました。
- 観光客がゆったりと楽しめるように憩いの場所として法隆寺iセンターにカフェテラスを設置しました。



▲ 斑鳩町の観光・商工業の振興のため、物産店やゆるキャラショーなどの「斑鳩市」を開催しました。

監査委員の意見

平成23年度の一般会計・特別会計の決算審査がおこなわれ、辰巳忠次・中川靖広両監査委員より意見をいただきました。その概要をお知らせします。

■ 審査の結果

審査に付された一般会計および特別会計の歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書および財産に関する調書の各計数は、関係法令に準拠して調製され誤りのないものと認められた。

また、各基金の運用状況についても計数に誤りなく、適正に運用されているものと認められた。

■ 決算の総括

当年度の連結ベースでの純計決算額は歳入136億9千3百万円、歳出134億4千6百万円で、差引形式収支は2億47百万円の黒字である。前年度比歳入歳出とも約1億3千万円の増で、決算規模は微増となった。ただ、財政調整基金積立額、約3億円の減を考慮すると実質的にはもう少し拡大している。

内容的には、形式収支と実質収支は前年度を下回るものの黒字を維持しているが、単年度収支では前年度の1千3百万円の黒字から9百万円の赤字転落となり、さらに一般会計に準じて計算してみた実質単年度収支では、財政調整基金積立の

減により前年度の3億1千4百万円の黒字から8百万円の赤字へ急降下する。

予算の執行状況は、歳入の収納率は前年を上回る高水準が続き、また歳出についても執行率は上昇し、不用額も減少している。歳出予算は節約を行い余らせる位でよいものも多いが100%執行がのぞましいものもあり、そうした事業についてこそ予算消化が必要とされよう。

水道事業企業債を含めた全町債は195億9千百万円で本年度も減少が続いて基金を控除した純負債は175億9百万円となる。

特別会計全体では赤字が続く。主因である国民健康保険事業特別会計は最近3年間は赤字補てんの繰上充用額を除いた単年度収支で黒字基調となっていたが、当年度は赤字に逆戻りした。保険給付費が急増したことによるものであるが、この傾向は今後も当面改まる気配はあまり感じられない。特に翌年度歳入からの繰上充用が続くが、現実には翌年度の当特別会計に充用する資金の余裕はなく、一般会計の翌年度繰越金(形式収支)で連結収支の均衡が計られている状態で、これが一般会計の形式収支に多額の黒字が続いている理由でもある。こうした点については今後の検討が必要であろう。

決算審査意見書は、役場2階情報公開窓口に提示しています。ご覧ください。

監査委員室 (内線3015)

■ 財産の状況

財産の種類	平成23年度末現在高
土地	352,550㎡
建物	91,907㎡
有価証券	104万円
基金	32億8,159万円

■ 基金の内訳

財政調整基金	18億5,727万円
減債基金	2億2,521万円
公共施設整備基金	44万円
都市計画事業整備基金	26万円
福祉基金	3億2,608万円
文化振興基金	8,657万円
斑鳩の里歴史文化遺産保存・活用基金	942万円
スポーツ振興基金	2,095万円
土地開発基金	7億2,451万円
国民健康保険財政調整基金	7万円
介護保険給付費準備基金	3,081万円
合計	32億8,159万円

■ 町債の状況

会計	平成23年度末現在高
一般会計	99億7,575万円
特別会計	81億5,240万円
合計	181億2,815万円

借入先	平成23年度末現在高
財政融資資金	60億6,663万円
旧簡易生命保険資金	15億8,035万円
市中銀行	35億7,820万円
地方公共団体金融機構資金	64億2,498万円
住民公募債	1億円
奈良県	3億1,642万円
旧郵便貯金資金	6,157万円
合計	181億2,815万円

平成23年度 斑鳩町財政健全化の状況

地方公共団体の財政の健全化に関する法律の規定により、平成23年度普通会計の健全化判断比率および公営企業の資金不足比率についての審査がおこなわれ、辰巳忠次・中川靖広両監査委員より意見をいただきました。

その概要をお知らせします。

〔審査の結果〕

1. 総合意見

審査に付された健全化判断比率・資金不足比率およびその基礎となる事項を記載した書類は、いずれも適正に作成されているものと認められた。

2. 個別意見

審査の対象である①実質赤字比率、②連結実質赤字比率はともに決算が黒字であること、③実質公債費比率は早期健全化団体の基準である25%を、④将来負担比率は同350%を遥かに下回る7.4%及び17.9%であり、かつ実質公債費比率は前年度比なお0.3ポイント

改善しているところから何れも問題はな

⑤資金不足比率

〔水道事業会計〕

判断基準の資金不足計算が流動比率に よるところから、当年度決算における流動比率は34.2%と資金過剰の状態を示しており、また1年以内返済予定の企業債(借入金)を流動負債に加えてもこれが17.4%となり資金不足にはならない。

したがって資金不足比率は本来算出されないが、前記資金過剰額を年間営業収益で除した比率(マイナスの資金不足比率)を算出すれば24.37%である。

〔公共下水道事業特別会計〕

決算の差引収支額は0円で資金不足は生じておらず、資金のマイナス補正を行ふべき繰上充用額、支払繰延額、事業繰越額及び建設改良費等以外の経費の財源に充てるために起こした地方債の何れもないところから実質的資金不足もない。よって資金不足比率は0%で、経営健全化基準の20%を大きく下回っている問題はない。

3. 是正勧告を要する事項

特に指摘すべき事項はない。

平成23年度決算から

平成23年度に斑鳩町の一般会計に入ってきたお金(歳入)は、83億3,173万円、使ったお金(歳出)は、76億4,199万円、差し引き、6億8,973万円となりました。ここから、平成24年度に繰り越す財源、5,598万円を差し引いた金額(実質収支額)は、6億3,375万円の黒字でした。

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」を受けて作成した財政健全化判断比率(下図参照)については、いずれの比率についても早期健全化団体となる基準を大きく下回っており、現段階については健全な状況となっています。

景気の先行きが不透明ななか、少子高齢社会を迎え、財政状況は今後ますます厳しくなると予想されますが、健全な財政運営に努めていきます。

予算・決算についての問合せ
企画財政課(☎内線2503)

■ 斑鳩町の健全化判断比率の状況 (平成23年度)

(単位：%)

指標	区分	平成23年度(A)	平成22年度(B)	(A) - (B)	指標の概要
実質赤字比率	斑鳩町の比率	-(△11.40)	-(△11.39)	△0.01	福祉、教育、まちづくり等をおこなう地方公共団体の一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を把握する指標
	早期健全化基準	14.67	14.70		
	財政再生基準	20.00	20.00		
連結実質赤字比率	斑鳩町の比率	-(△8.40)	-(△9.02)	0.62	すべての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体全体としての運営の深刻度を把握する指標
	早期健全化基準	19.67	19.70		
	財政再生基準	30.00	35.00		
実質公債費比率	斑鳩町の比率	7.4	7.7	△0.30	借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を把握する指標
	早期健全化基準	25.0	25.0		
	財政再生基準	35.0	35.0		
将来負担比率	斑鳩町の比率	17.9	15.2	2.70	地方公共団体の一般会計の借入金(地方債)や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを把握する指標
	早期健全化基準	350.0	350.0		
	財政再生基準	—	—		

注) 実質収支または連結実質収支が黒字である場合は、「実質赤字比率」または「連結実質赤字比率」は負の値で表示しています。